

野菜の需給・価格動向レポート(平成26年10月6日版)

1 主要野菜の生産出荷状況

種類	9月の価格情報				10月 平年価格	生育及び価格の10月の見通し (台風18号の影響は加味していません。)		
	平年価格	指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価額						
		上旬	中旬	下旬				
葉 茎 菜	キャベツ 	74.19	117	122	133	74.19	・入荷見込量: 15,380 (98) ・主産地: 群馬 (57)、千葉 (14)、岩手 (11)、茨城 (8) ・群馬産は、8~9月の長雨と低温により生育は停滞気味で引き続き小玉傾向で、今後も平年よりも少なめの出荷の見込み。千葉産は、一部で最近の低温の影響を受けているものの、病害虫の発生もなく概ね生育は順調であり、平年並みの出荷の見込み。 ・千葉産が平年並みの出荷を見込まれるものの、群馬産の出荷が平年より少なめと見込まれることから、価格は平年並みに近づくものの、引き続き平年を上回って推移する見込み。	
		88.91	118	126	137	88.91	・入荷見込量: 3,900t (97) ・主産地: 群馬 (56)、長野 (26)、茨城 (10)	
	ねぎ (関東は白ねぎ、 近畿は青ねぎ) 	273.33	260	234	217	218.22	・入荷見込数量: 6,010t (100) ・主産地: 青森 (25)、秋田 (18)、北海道 (16)、茨城 (9)、山形 (9)、岩手 (7)、新潟 (3)、輸入 (3)、埼玉 (2) ・青森産は、8月の長雨などの影響は特に見られず、生育は順調であることから平年並みの出荷の見込み。北海道産は、冷涼な気温となり生育も回復し、現在出荷のピークを迎え、平年並みの出荷の見込み。秋田産は、天候に恵まれ生育は順調であり、平年並みの出荷の見込み。 ・現在価格は平年を下回っているが、10月以降平年の価格水準が下がる時期となることもあり、青森産、北海道産及び秋田産の出荷が平年並みと見込まれることから、平年並み若しくは平年をやや下回って推移する見込み。	
		487.13	480	472	513	444.77	・入荷見込数量: 170t (99) ・主産地: 香川 (22)、徳島 (16)、奈良 (13)、三重 (11)、大阪 (10)、高知 (10)	
	はくさい 	78.06	157	120	121	78.06	・入荷見込量: 14,830t (98) ・主産地: 長野 (75)、茨城 (13)、北海道 (8) ・長野産は、気温の低下に伴い生育は停滞気味であったが、最近では天候の回復に伴い生育も回復し平年並みの出荷の見込み。御嶽山の噴火の影響は、降灰地域の出荷シェアが低いので、小さい見込み。茨城産は、天候に恵まれ生育は順調であり、平年よりやや多めの出荷の見込み。	
		88.72	158	119	128	88.72	・入荷見込量: 5,700t (95) ・主産地: 長野 (96) ・長野産及び茨城産の出荷は平年並み若しくは平年より多めの出荷が見込まれることから、平年を大きく上回っていた価格は、10月以降平年の価格水準が下がる時期となる中で、平年並みに近づく見込み。	
	ほうれんそう 	583.95	904	692	580	350.10	・入荷見込量: 1,360t (100) ・主産地: 群馬 (41)、茨城 (17)、栃木 (14)、千葉 (8)、岩手 (7)、埼玉 (5) ・群馬産は、作付面積の減少から平年よりやや少なめの出荷となっており、今後も引き続き少なめの出荷の見込み。栃木産は、最近の安定した天候により品質も良好で生育は順調なことから、平年よりやや多めの出荷の見込み。茨城産は最近の冷涼な気温で天候が安定していることから、生育は順調で平年よりやや多めの出荷の見込み。	
		670.86	935	779	655	419.76	・入荷見込量: 540t (101) ・主産地: 岐阜 (68)、和歌山 (8)、北海道 (6)、奈良 (6) ・群馬産は少なめの出荷が見込まれるものの、栃木産及び茨城産の出荷が平年よりやや多めの出荷が見込まれることから、価格は、10月以降平年の価格水準が下がる時期となる中で、平年並みに近づく見込み。	
	レタス (結球) 	158.27	262	248	211	158.27	・入荷見込量: 8,740t (100) ・主産地: 茨城 (61)、長野 (25)、栃木 (6) ・茨城産は、天候に恵まれ生育は順調であり、平年並みの出荷の見込み。長野産は、気温低下などの影響により、生育は停滞気味で少なめの出荷となっており、今後は終盤期であることもあり、平年よりやや少なめの出荷の見込み。 ・茨城産の出荷が平年並みと見込まれることから、価格は、概ね平年並みに推移する見込み。	
		152.57	277	263	227	152.57	・入荷見込量: 1,550t (98) ・主産地: 長野 (57)、茨城 (24)、兵庫 (12)	
たまねぎ 	76.15	116	97	83	76.15	・入荷見込量: 11,360t (105) ・主産地: 北海道 (91)、輸入 (5) ・北海道産は、出荷の最盛期を迎え、一部の産地では小玉傾向であるものの、概ね生育は順調で収穫作業も順調に行われていることから、平年並み出荷の見込み。 ・北海道産の出荷は概ね平年並みと見込まれることから、価格は平年並みに推移する見込み。		
	76.15	119	101	80	76.15	・入荷見込量: 3,500t (108) ・主産地: 北海道 (60)、兵庫 (36)		
果 菜	きゅうり 	210.69	399	283	286	262.75	・入荷見込量: 5,810t (100) ・主産地: 埼玉 (25)、群馬 (24)、茨城 (13)、福島 (13)、栃木 (6) ・埼玉産は、作付面積の減少により引き続き平年より少なめの出荷の見込み。群馬産は、低温により生育はやや遅れており、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。茨城産は、8月後半の天候不順の影響で生育にやや遅れがあり、今後も引き続き平年より少なめの出荷の見込み。	
		221.71	416	299	279	284.72	・入荷見込量: 1,100t (97) ・主産地: 宮崎 (20)、北海道 (15)、群馬 (15)、大阪 (14)、愛媛 (9)、福島 (6) ・埼玉産、群馬産及び茨城産の出荷が平年より少なめの出荷が見込まれるものの、10月以降平年の価格水準が上がる時期でもあり、現在平年を上回っている価格は、平年並みに推移する見込み。	
	トマト (大玉) 	229.51	328	356	512	315.83	・入荷見込量: 6,450t (98) ・主産地: 千葉 (23)、茨城 (16)、福島 (11)、青森 (11)、愛知 (7)、群馬 (5) ・千葉産は、一部で花とびや病害の影響が見受けられ、8月の天候不順による着果不良もあり、今後も平年よりやや少なめの出荷の見込み。茨城産は、8月下旬の天候不順の影響で少なめの出荷となっており、作付面積の減少もあり今後も平年より少なめの出荷の見込み。福島産は、8月の天候不順と最近の低温による着色の遅れにより、平年より少なめの出荷の見込み。	
		271.33	347	385	501	337.88	・入荷見込量: 1,200t (82) ・主産地: 北海道 (26)、岐阜 (22)、熊本 (18)、岡山 (7)、石川 (6) ・千葉産、茨城産及び福島産の出荷が平年より少なめと見込まれることから、価格は引き続き平年を上回って推移する見込み。	
	なす 	209.55	375	361	286	301.00	・入荷見込量: 2,910t (95) ・主産地: 高知 (35)、栃木 (17)、群馬 (16)、茨城 (14)、福岡 (5) ・高知産は、8月の台風によるハウスの倒壊で作付面積が減少し、平年よりやや少なめの出荷となっているが、生育は順調であることから、今後は概ね平年並みの出荷の見込み。栃木産及び群馬産は、夜温が低いことによる肥大不足から少なめの出荷となっており、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。	
		221.72	365	310	217	263.21	・入荷見込量: 650t (98) ・主産地: 高知 (24)、徳島 (14)、大阪 (13)、熊本 (10)、岡山 (9)、山梨 (7) ・栃木産及び群馬産の出荷が平年より少なめと見込まれ、高知産の出荷は概ね平年並みと見込まれることから、10月以降平年の価格水準が上がる時期であることもあり、価格は平年並みに推移する見込み。	
	ピーマン 	263.58	579	373	302	263.58	・入荷見込量: 1,940 (100) ・主産地: 茨城 (63)、岩手 (19) ・茨城産は、最近の天候も安定し生育は概ね順調で、平年並みの出荷の見込み。岩手産は、最近の気温の低下と稲刈り作業も重なり少なめの出荷となっており、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。	
		282.16	466	403	332	282.16	・入荷見込量: 500t (94) ・主産地: 茨城 (20)、青森 (17)、高知 (9)、愛媛 (8)、大分 (8)、宮崎 (8) ・岩手産の出荷が平年より少なめと見込まれるものの、茨城産の出荷が平年並みと見込まれることから、価格は平年並みに推移する見込み。	
	根 菜	だいこん 	94.60	120	115	108	64.33	・入荷見込量: 13,910t (100) ・主産地: 北海道 (36)、青森 (33)、岩手 (5) ・北海道産は、最近の天候が安定していることから平年よりやや多めの出荷となっているが、主力の産地が10月上旬で切り上がるが見込まれることから、今後は平年よりやや少なめの出荷の見込み。青森産は、最近の天候に恵まれ、生育は概ね順調であり平年並みの出荷の見込み。
			100.39	115	117	107	76.48	・入荷見込量: 4,300t (100) ・主産地: 北海道 (31)、石川 (31)、青森 (12)、新潟 (10)、岩手 (8) ・青森産の出荷が平年並みと見込まれるものの、北海道産の出荷が平年より少なめと見込まれることから、10月以降平年の価格水準が下がる時期であることもあり、現在平年をやや上回っている価格は、平年を上回って推移する見込み。
にんじん 		123.08	106	108	99	123.08	・入荷見込量: 8,740t (100) ・主産地: 北海道 (93)、輸入 (2) ・北海道産は、病害虫の発生もなく品質も安定し、天候にも恵まれていることから生育は順調で、平年よりやや多めの出荷となっており、今後も引き続き平年よりやや多めの出荷の見込み。	
		123.11	109	109	100	123.11	・入荷見込量: 2,800t (100) ・主産地: 北海道 (99) ・北海道産の出荷が平年よりやや多めと見込まれることから、価格は引き続き平年を下回って推移する見込み。	

種類	9月の価格情報				10月 平年価格	生育及び価格の10月の見通し (台風18号の影響は加味していません。)
	平年価格	指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価格				
		上旬	中旬	下旬		
いも	242.66	321	314	263	200.88	・入荷見込量：1,300t (100) ・主産地：埼玉 (49)、千葉 (25)、輸入 (12)、栃木 (6)
	220.11	347	309	256	207.20	・入荷見込量：259t (-) ・主産地：愛媛 (48)、宮崎 (25)、輸入 (7)、福井 (7)
	101.61	117	108	95	88.17	・入荷見込量：9,180 (105) ・主産地：北海道 (100)
ばれいしょ	101.61	116	99	86	88.17	・入荷見込量：3,500t (87) ・主産地：北海道 (99)

注：1 平年価格は、過去6年間の中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均で(消費税は除く。)保証基準額の算定の基となる価格。
2 旬別平均販売価格の赤字は平均価格を50%以上回るもの、背景ありは保証基準額(平均価格の90%)を下回るもの(消費税は除く。)
3 単位は円/kg、上段は関東、下段は近畿ブロック。
4 入荷見込量は、関東農政局及び近畿農政局「野菜の入荷量と価格の見通し」による。()内は前年対比。さといもは前年実績。
5 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。()内は入荷シェアであり、関東は本年の見込み、近畿は前年の実績。
6 コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの取組をもとに機構が作成したもの。
7 平成25年8月20日版より、平均価格と旬別平均販売価格を一部の品目につき細分化し、ねぎについては関東は白ねぎ、近畿は青ねぎ、レタスについてはレタス(結球)、トマトについてはトマト(大玉)の数値を用いている。

2 野菜の需要動向

家計調査によると、8月の1人当たりの生鮮野菜の購入量は、4,275gで前年比97%、購入金額は、1,846円で同106%となった。
また、小売物価統計によると、9月のキャベツの小売価格は、221円で過去5か年平均比148%、レタスは、864円で同171%とともに過去5か年平均を大幅に上回った。

生鮮野菜の購入数量及び購入金額(1人当たりの購入数量と購入金額)

年	過去5か年平均		平成25年		平成26年	
	購入数量(g)	購入金額(円)	購入数量(g)	購入金額(円)	購入数量(g)	購入金額(円)
1月	4,252	1,595	4,243	1,669	4,379	1,775
2月	4,463	1,624	4,553	1,652	4,646	1,742
3月	4,836	1,772	4,961	1,769	4,903	1,861
4月	4,747	1,838	5,019	1,809	4,871	1,887
5月	5,103	1,902	5,257	1,861	5,146	1,993
6月	5,092	1,885	5,249	1,897	4,998	1,976
7月	4,423	1,712	4,456	1,783	4,542	1,770
8月	4,324	1,713	4,422	1,741	4,275	1,846
9月	4,768	1,803	4,577	1,863	0	0
10月	5,238	1,861	5,225	1,932	0	0
11月	4,993	1,671	4,852	1,806	0	0
12月	5,142	1,882	5,152	2,093	0	0

資料：総務省「家計調査報告(二人以上世帯(農林漁業世帯を除く))」注：過去5か年平均は、平成21～25年の平均。

主要野菜の小売価格(東京都都区部)

	キャベツ			レタス		
	過去5か年平均	平成26年	5か年比(%)	過去5か年平均	平成26年	5か年比(%)
1月	198	267	135	673	684	102
2月	211	234	111	605	578	95
3月	200	200	100	498	459	92
4月	248	206	83	469	381	81
5月	169	175	104	371	351	95
6月	137	147	108	317	321	101
7月	153	173	113	322	338	105
8月	140	158	113	415	419	101
9月	149	221	148	506	864	171
10月	158	0	0	449	0	0
11月	162	0	0	421	0	0
12月	162	0	0	521	0	0

資料：総務省「小売物価統計調査報告」
注：1 過去5か年平均は、平成21～25年の平均。
2 平成26年9月の値は、9月中旬の速報値。

3 野菜の輸入動向

8月の野菜の輸入を貿易統計で見ると、生鮮野菜は、前年同月比102%の5万7千トン、加工野菜は同89%の14万1千トン、野菜全体は、同92%の19万8千トンとなった。このうち中国産野菜合計は96%の10万9千トンとなった。
生鮮野菜は前年をわずかに上回ったものの、加工野菜は前年をかなり大きく下回ったことから、野菜全体では前年をかなり下回った。

野菜の輸入数量

区分	平成24年		平成25年		平成26年1～8月		平成26年8月	
	前年比	前年比	前年比	前年比	前年同月比	前年同月比		
生鮮野菜	946,931	103	854,057	90	639,857	115	56,746	102
加工野菜	1,909,671	106	1,854,295	97	1,231,054	99	141,118	89
野菜合計	2,856,601	105	2,708,352	95	1,870,911	104	197,864	92
うち中国産野菜合計	1,458,418	103	1,415,901	97	940,389	105	108,981	96
中国産シェア	51		52		50		55	

資料：ベジ探(原資料)財務省「貿易統計」

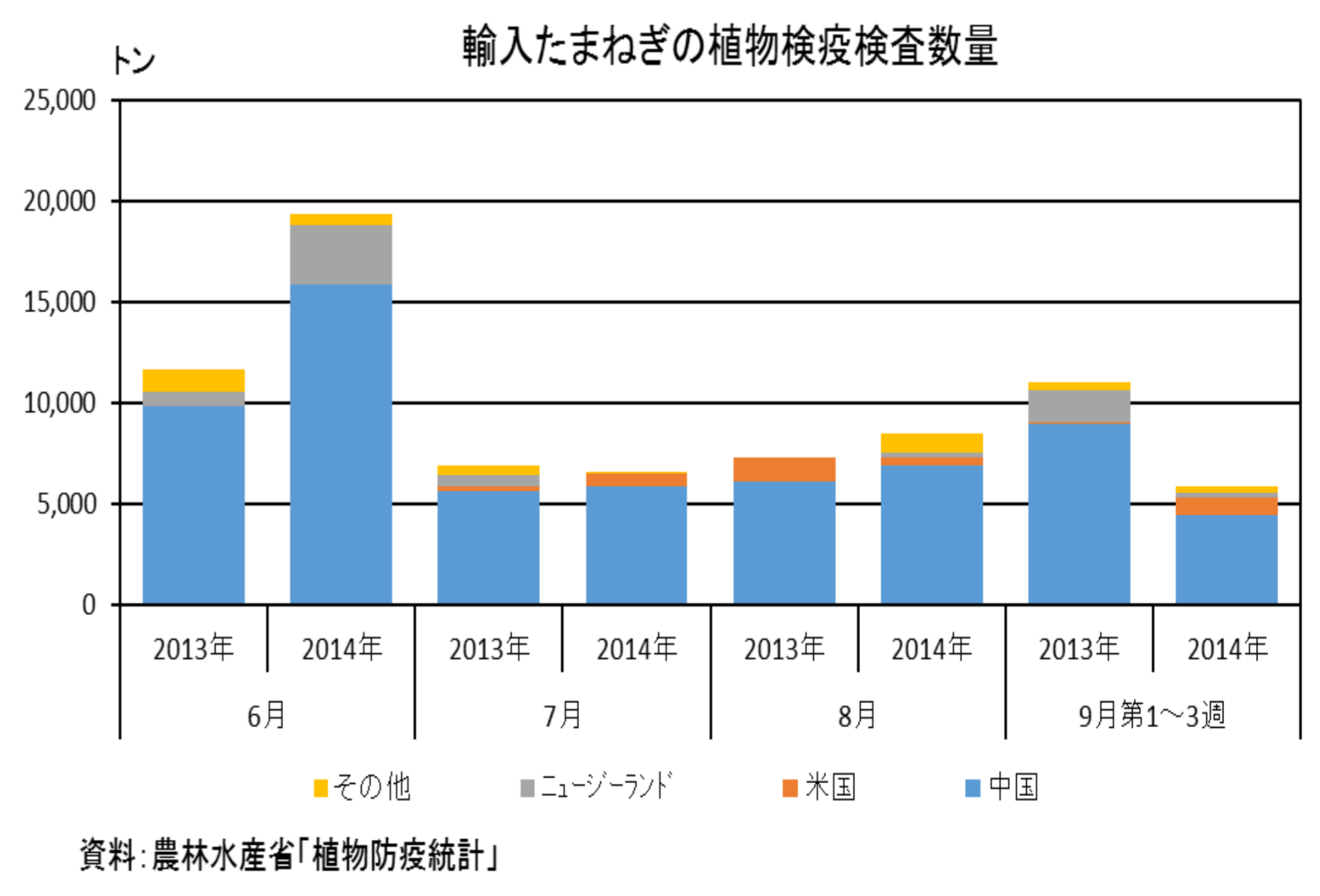
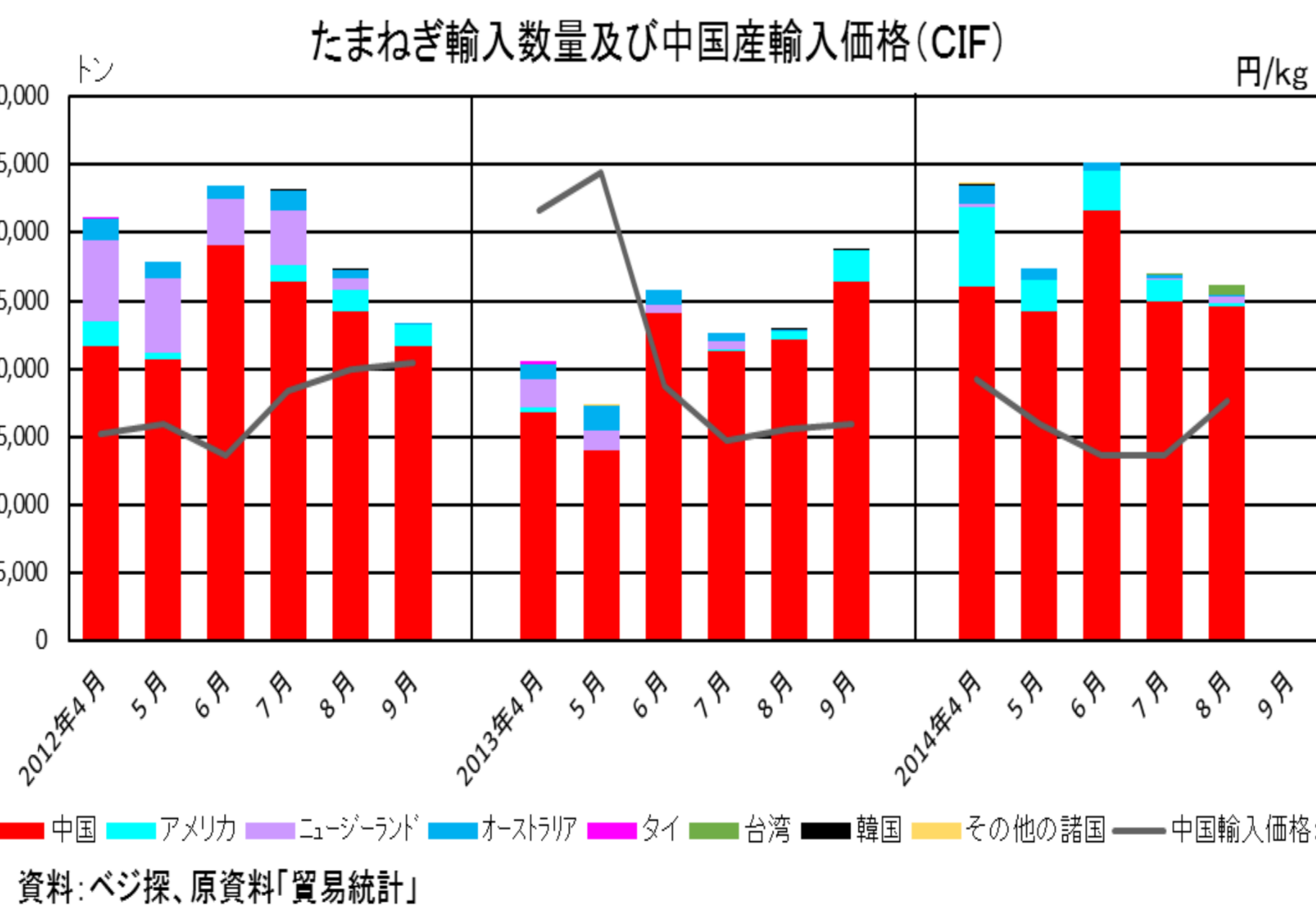
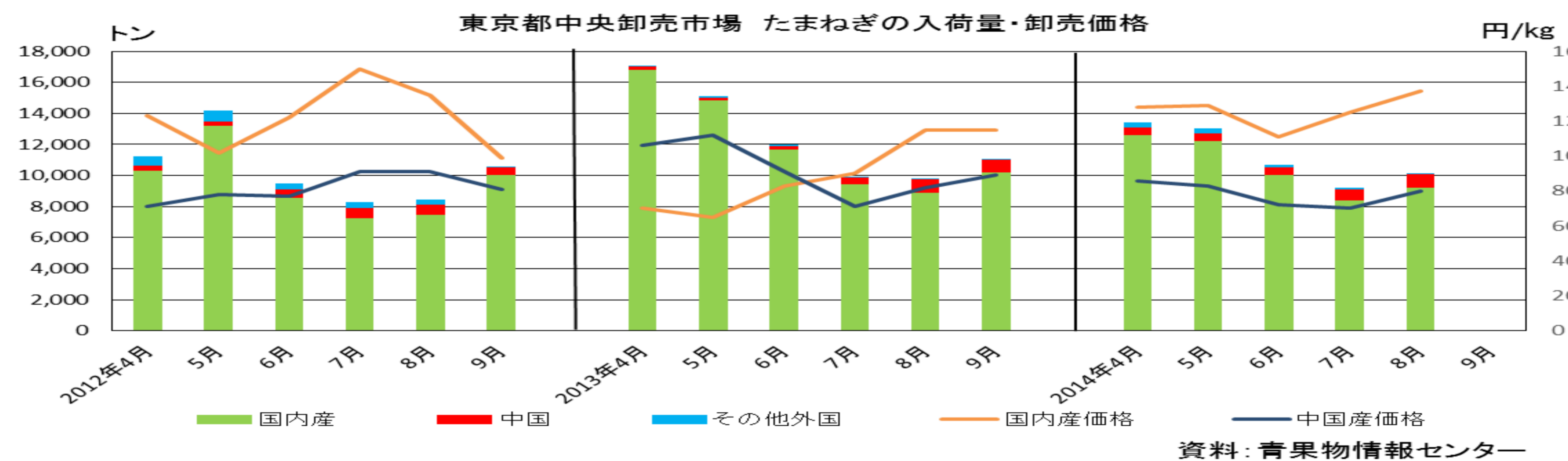
主な野菜の輸入数量

品目	輸入先	平成25年8月(A)		平成26年8月(B)		(B)/(A)
		数量	数量	数量	数量	
たまねぎ	合計	22,891	23,957	105		
	中国	22,163	22,387	101		
	韓国	-	722	-		
にんじん	合計	6,514	5,505	85		
	中国	6,223	5,422	87		
	ニュージーランド	245	39	16		
ねぎ	合計	4,870	4,234	87		
	中国	4,868	4,232	87		

資料：農林水産省「植物防疫統計」注：平成26年8月は、速報値。

4 トピック — たまねぎの需給動向 —

最近の生鮮野菜の輸入量(26年4～8月計)は、対前年同期比で12%増加しており、その主因はたまねぎの増加であることから、今回は、たまねぎの需給動向を紹介する。
東京都中央卸売市場のたまねぎの国内産入荷量(4～8月)を見ると、兵庫県産の豊作に対し佐賀県産の作柄不良から前年を15%下回り、国内産価格は堅調に推移した。このため、生鮮たまねぎの輸入量は、昨年同時期が国内産の良好な作柄と価格低迷等により輸入が低水準であったこともあり、37%(中国産34%)の増加となった。
しかし、中国産たまねぎからは、7月25日に日本の基準値を超える残留農薬(チアメトキサム)が確認され、8月8日に検査命令(残留農薬の全箱検査)が発令された。これに伴い、中国の国家質量(品質)監督検査検疫総局(CIQ)により、①輸出検査強化、②輸出企業への自主検査要請、③残留農薬が確認された輸出企業の産地の検査実施と当該検査結果が判明するまでの輸出停止が措置されたとみられている。この結果、中国産の輸入は、国内産価格が上昇していた7月及び8月においても、6月に比べると大幅な減少となった。
さらに、農林水産省植物防疫統計で9月の中国産の検査数量(第1～3週)を見ると前年検査実績を下回っている。主に外皮を剥いた形で輸入される中国産たまねぎは、加工業務用の固定需要が堅調なため、当面、中国産の価格は堅調に推移すると見込まれるが、ニュージーランド、韓国などからの代替輸入の動きもみられる。
9月以降の流通の主力となる北海道産の生育・出荷は、現時点で平年並みと見込まれ、卸売価格も概ね平年並みとなりつつある。輸入も含めて今後の需給動向の注視が重要である。



●問い合わせ先 独立行政法人農畜産業振興機構 野菜需給部 需給業務課 前川、河原、斎藤 TEL03-3583-9483、FAX03-3583-9484 ご意見、ご要望をお寄せください。
◆「野菜の需給・価格動向レポート」は月2回公表しています。公表時にメルマガでお知らせしますので、ご希望の方はベジ探のトップ画面、メルマガ配信登録・解除ボタンから登録してください。
★この「野菜の需給・価格動向レポート」は、http://vegetan.alic.go.jp/vegetable_report.html に掲載しています。